

新型コロナウイルスの宿主、タヌキだったか…WHO「中国、もっと早く公表すべき」

3/19 中央日報

国際研究所で新型コロナウイルスの初期拡散に中国市場で取引されたタヌキがかかわっていた可能性が提起された。ウイルスの起源に対する議論が再度起こると予想される。

CNNなどが17日に伝えたところによると、米スクリプス研究所、豪シドニー大学、米アリゾナ大学などに所属する国際研究陣は、中国・武漢の華南水産市場内の動物のおり、車、地面などで2020年1月～3月に採取された遺伝子データに対する再分析をした。

中国華南水産市場は名前は水産市場だが、魚介類をはじめコウモリ、センザンコウ、ヘビ、カモ、ムカデ、タヌキ、ウサギなど各種の野生動物を食用として売っていた。新型コロナウイルスが2019年12月に世界保健機関（WHO）に正体不明の肺炎として初めて報告された時にこの市場が発病地と名指しされたりもした。

今回分析した遺伝子サンプルは当初3年前に収集され中国の科学界で分析したが、中国は今年1月に国際インフルエンザ情報共有機関（GISAID）に関連データを公開した。最近ではこれさえも削除した。

だがデータが完全に削除される前にフランスの生物学者がこれを偶然に発見し、彼がこれを国際科学者グループと共有してデータは再分析を経ることになった。

今回の再分析では、華南市場で見つかった新型コロナウイルスが動物ではなく人間発だと結論を出した中国側の主張と正反対の結果が出た。遺伝子データを分析すると新型コロナウイルスに陽性反応を見せた遺伝子サンプルにはこの市場で販売されたタヌキの遺伝子が相当量混ざっていると明らかになったのだ。

研究チームは「これはタヌキが新型コロナウイルスの宿主だったかもしれないという点を示唆する」と説明した。これまで有力な宿主動物とされたコウモリやセンザンコウではなくタヌキが新型コロナウイルスの中間宿主の役割をした可能性が提起されたのだ。

今回の研究結果はまだ学術誌などに公式掲載されていないが、研究陣はWHOの「新しい病原体の起源調査に向けた科学諮問グループ（SAGO）」に今週この事実を伝達した。

WHOは、中国が新型コロナウイルスとタヌキなど野生動物間の関連性について早く公表すべきだったと批判した。WHOのテドロス事務局長は「このデータは3年前に共有されており、共有されなければならなかった。われわれは中国がデータを透明に公開し必要な調査を遂行してその結果を共有することを続けて促す」と話した。

米シカゴ大学の感染症学者、サラ・コビー氏は今回の研究結果に対して「単純に人間による感染ならば遺伝子サンプルにこのように多くの動物のDNA、特にタヌキのDNAが混ざる可能性は非常に低い」と説明した。コビー氏は今回の再分析には参加していない。

ルイジアナ州立大学シュリーブポート保健科学センターのウイルス学者、ジェレミー・カミル氏は「感染したタヌキがその市場にいたことは明らかだ。中国政府が実際に何を知っているのかに対するさらに大きな疑問も提起される」と話した。

ただ今回の再分析結果が新型コロナウイルスの起源を完ぺきに明らかにするものではないとCNNは伝えた。これまでの情報だけではタヌキが新型コロナウイルスに感染したのが確実なのか、タヌキが初めて人間に新型コロナウイルスを感染させたのが正しいのか断言できないという説明だ。